

不器用令嬢の百合は難しすぎる！

【第1話】

みなぎし　すい

【人物一覧表】

沢良宜明那（6）（12）（17）：

社長令嬢

沢良宜大河（40）：企業の社長
山田岬（35）：沢良宜家の使用人

青宮院綾（17）：金持ち令嬢

青宮院一（37）

田中寛子（17）：学生

水瀬美香（32）：水瀬明那の母

水瀬時音（12）：水瀬家三男

水瀬夏帆（12）：水瀬家次女

男子生徒A

男子生徒B

女子生徒A

○沢良宜宅前（朝）

朝日が照りつけている。

○沢良宜宅・大河の部屋（朝）

とても綺麗で豪華な部屋。

沢良宜 大河（40）、椅子に座つている。沢良宜 明那（17）、立つて大河と向かい合っている。

明那 N 「わたしには、夢がある」

明那、真剣な表情。

大河「明那。今日からもう3年生なわけだ。大学受験も近い」

大河、手に持つているたくさんの資料を整える。

大河「東大か、そうでなくともそれくらいのいい大学に入りなさい。主席も必ず維持するように」

明那、一瞬表情を曇らせ、すぐにきりつとした表情に切り替える。

明那「問題ないわ、お父様」

大河 「そうか、その調子で励みなさい」

明那 「はい、がんばってまいります」

明那、扉を開けて退室。

○ 同・明那の部屋（朝）

明那、扉を開けて入室。

山田岬（37）「新学年ですね、お嬢様」

明那 「うん、そうね」

明菜N「山田岬。使用人の中でもよくそばに

いて、よく話す人」

明那、椅子に座つて机に突つ伏す。

明那「はあ？ どうやつたら百合できるの？」

明菜、ため息をつく。

岬 「ふふっ。お嬢様は百合とヒーローものが

お好きですものね」

机の横に、百合漫画や変身ベルトが置かれた棚がある。

明那「これからもお父様にはバレないようにしてよ？ お見合いなんてやだから」

岬「はい、承知しております。このお部屋は、

原則お嬢様と私しか入れないようになつて
いますから」

明那、百合漫画を手に取り眺める。

明那「青春百合恋がしたい！　でも恋愛経験
なんてないしわっかんない！　勉強も忙し
いしさ」

明那、カエルのようにむくれる。

岬「わたしは、いつでも応援しています。お
嬢様は普段からがんばっていますから、少
しくらい息抜きをしてもよろしいのですよ」

岬、明那に向かつて笑いかける。

明那、制汗剤を取り出し、体に塗る。

○沢良宜宅前（朝）

豪邸、沢良宜宅。

日差しがいい感じに照りつけている。

岬「行つてらっしゃいませ、お嬢様。今日も

お美しいです」

使用人たち、明那に向かつてお辞儀を
する。

明那 「いってきます」

明那、門を開けて外に出る。

○学校・校門（朝）

明那の巨乳が揺れる。それが視線を集めている。

男子生徒A 「沢良宜さんだ。沢良宜コーポレーションの令嬢」

男子生徒B 「生徒会長なうえにマジ憧れるよな……次の選挙も沢良宜さんに投票するぜ」

明那M 「はあ。なんか高嶺の花みたいに見られてるけど、それって誰も近寄つてこないつて意味なんだよねえ」

明那、ため息をつく。

明那M 「ああ！百合したい！」

○同・下駄箱前（朝）

明那、クラス分けが書かれている紙を見る。

明那 「3組、ね」

○ 同・3の3教室（朝）

明那、教室に入つて席に座る。

明那「勉強しないと」

明那、机に東大の赤本を出す。

クラスメイトたち、明那を見て会話している。

○（回想）水瀬宅・子供部屋

明那（12）「兄さん、姉さん、プレゼント」

明菜、プレゼントを水瀬時音（12）
と水瀬夏帆（12）に渡す。

2人、プレゼントを投げ捨てる。

時音「いらない！ エタ菌がうつる！」

夏帆「あっち行つて！」

○ 同（夜）

明那、しゅんとしている。

水瀬美香（32）「明那」

明那「ママ」

美香 「エタちゃんは、別の家に拾われたから

大丈夫」

明那 「違うもん！ 大道ちやんだもん！」

明那、泣く。

(回想終わり)

○学校・3の3教室(朝)

明那 「大道ちゃん、大丈夫かな。うまくやれ
てるかな」

明那の机に影が落ちる。

明那「？」

青宮院綾(17) 「あなたが、沢良宜明那さ
んですわね。わたくしのこと、当然覚え
てますわよね？」

綾、腕を組んでいる。

明菜M 「すごい綺麗な人。どこかの令嬢様か
な？」

明那 「えっと……誰でしたつけ」

明那、きょとんとする。

綾 「な……このわたくしをわすれたですって

「え」

明那 「えっと……」

※ ※ ※

(フラッシュ)

生徒会選挙。明那、体育館の壇上に立つている。

その隣に、悔しそうな表情の綾。

※ ※ ※

明那 「あ、思い出した。青宮院綾さん。去年、

生徒会長に立候補してた人」

綾 「そうですわ！」

綾、明那に指さし、

綾 「そ、それだけですのに、なんてこと……
お、覚えてらっしゃい！ わたくしは青宮
院綾、あなたを越えてトップになる者です
わ！」

教室に響くくらいの大声で叫ぶ。

明那 「そう、がんばって。負けないわ」

綾 「ふんっ！ 余裕ぶつてるのも今のうちで
すわ！ いつか必ず……」

綾、荒々しく明那の隣に座る。

明那「え、もしかしてお友達になってくれる?
ねえ!お友達になりましょう!」

綾「な、わたくしはライバルですよ!お
友達なんてなれなれしくしないでください
まし!」

明那「あ……」

明那、しゅんとする。

明那M「諦めないわ。決めた、まずは、青宮
院さんとお友達になるわ! それが百合の
第一歩よ! ゼッタイお友達になるんだか
ら!」

明那、決意のまなざし。

田中寛子(17)、離れた席から明那
を見つめ、

寛子「沢良宜明那さん……わたしあなたの
ことを」

と、小さくつぶやき、メガネをくいっ
とする。

○ 沢良宜宅・玄関

明那、玄関扉を開ける。

靴を脱ぎ、靴箱にきれいに直す。

使人「おかえりなさいませ、お嬢様」

明那「ただいま」

岬「先にご入浴なさってください」

明那「ええ、そうするわ。山田さん、その⋮
⋮今日は背中を流してもらいたいの」

少しくぐもつた声の明那。

岬「はい」

○ 同・大浴場

明那と岬、湯船につかっている。

岬「湯加減はどうですか」

明那「ねえ。今日わたしを知つてゐる青宮院綾
つて人と同じクラスになつたのだけど、何
か知つてる?」

岬「青宮院といいますと、金持ちの令嬢です
ね。お嬢様は普段からご自分のことでいつ
ぱいですから、ご存じなかつたのでしょうか」

明那 「そうね……」

明那、下腹部を手で触り、下半身を揺らす。

岬 「お嬢様、みなさんの規範になろうと無理をなさっているのではないですか？」

明那 「えっ？」

岬 「水瀬性の頃に、大好きな義母と離れ離れになつて寂しかつたとおっしゃつていました」

た

※ ※ ※

(フラツシユ)

疲れた顔で勉強する明那と、それを見守る岬。

※ ※ ※

岬 「わたしの立場から、お嬢様の頼みごとを嫌うことはありません。ご奉仕でもなんでも、なんなりとお申し付けを。どうか、無理だけはなさらないよう」

明那 「じゃ、じゃあ……お、お願ひしようかしら」

岬 「はい、承知しました」

岬、後ろから明那の下腹部をするりとなで、胸を優しく揉む。

明那 「あんつ！」

明那の陰部に、岬の細い指が入る。

明那 「ああんツ！ ひあんつ！ あんつ！」

そこはつ！ あ、ダメつ！」

岬 「ふふっ。こういう奉仕は初体験ですからね。とてもかわいい反応なさっていますよ」

岬、につこり笑う。明那の陰部をくぱあと開き、ずぼずぼと激しく指で刺激する。

明那、激しく喘ぐ。

明那 「ああああああああつ！ これスキ！」

だめえつ！ 無理！ イク！」

岬 「どうぞ、身をゆだねてください」

岬、明那の前に移動し、明那の顔を自分の脇に押し付ける。

明那 「んー！ んんつ！ 山田さんつ！ 脇

いこ、こんなつ！ イク！ こんなのです

ぐイッちやう！」

岬 「お、じよ、う、さ、ま。とくつても、む
つづりですね」

岬 、明那の耳元でささやく。

明那 「あ！ そんなこと言われたら！ 岬さ
んっ！ イク、イク、イクううううツ！」

明那 、湯船の中で潮吹きする。

岬 「いつでもご奉仕してさしあげます。やり
すぎは体に毒なのでお気をつけて」

○ 同・明那の部屋

明那 、恥ずかしそうに顔を隠している。

明那 「もう…山田さん」

岬 「なんでしようか、お嬢様」

明那 「なんでわたしの…バレてるの」

岬 「いつもそういうものをご覧になつていま
すので」

明那 、椅子に座つて机に向かう。

明那 「勉強しなきや」

明那 、ノートを広げる。

インター ホンが鳴る。

岬 「誰でしようか？」

○ 同・庭

玄関扉を開ける岬。明那も一緒に出てくる。明那の視線の先、正門のところに綾がいる。

2人、綾のところまで移動。

明那 「青宮院さん。どうしてここに」

綾 「沢良宜さん！ 幼い時から思っていましだ！ あ、あなたを越えるためならなんでもすると！ さあ、わたくしをこの家に住まわせなさい！」

明那 「えっと、そんなこと、いきなりでお父様が許すとは……」

○ 同・大河の部屋

大河 「いいぞ」

明那 「え」

岬 「よろしいのでしょうか？」

明那と岬、驚いた表情をする。

大河「好きにしろ。偉いところの令嬢様のは知ってる、明那のいい刺激になるかもしねない。粗相があればすぐに追い出すがな」

○ 同・庭

明那「いいって」

綾「それじやあ遠慮なくあがらせてもらいますわ！」

明那M「うそそ、青宮院さんがうちに？
うれしいつ！　これはお友達にならなくつ
ちや！」

岬、門を開ける。綾、敷地内に入る。

○ 同・明那の部屋前

岬「青宮院様、こちらでございます。お嬢様
と同じ部屋をお使いくださいませ」

明那、合鍵で部屋の鍵を開ける。

○ 同・明那の部屋

綾、明那の部屋に上がりこむ。

明那M「く、クラスの女子を部屋にあげちゃつた！じょじょじょ女子が！いや、同性だからセーフよ明那……」

明那、顔を手で隠して悶絶している。

綾「くっ、わたくしの部屋より広いじやありませんの！こんなベッドまであるだなんて！」

綾、悔しそうに拳を握る。

岬「粗相があると追い出されてしまうので、気を付けてくださいね」

綾「わかつてますわそのくら……い」

綾、棚に視線を移す。

綾「漫画？」

明那「あ！そつちはだめっ！」

明那、慌てて棚を隠すように立ちふさがる。

綾「え、なにその反応」

岬「青宮院様。こちらはお嬢様の私物ですので、何かあればお嬢様に許可を」

綾 「はあい」

綾、ベッドに座る。

明那、落ち着くための動作をする。

○ 同（夜）

窓から、きれいな夜空がのぞく。

岬 「青宮院様、机とベッドをご用意いたしました」

綾 「ありがとうございます」

明那と綾、デスクに座つて勉強を始める。岬、2人をやさしく見守っている。

岬 「お嬢様、勉強はどうですか」

明那 「大丈夫、順調よ」

綾 「沢良宜さんには負けませんわ！」

明那 「そう、がんばつて」

綾 「（悔しそうに）きいつ！ い、今に見てなさい沢良宜さん！」

明那 「少し聞きたいのだけど、どこで会つた

か教えてもらえないかしら？」

綾 「そ、それは……言えませんわ！」

明那 「そう。無理には聞かないけど。それより、せっかくだしお友達になりたいわ」

綾 「だから！ わたくしは、ライバルですわ！」

○（回想）青宮院宅・リビング（朝）

青宮院一（38）「綾、なにごとも一番を目

指すんだ」

綾 「もちろんですわ！」

一 「そうだ、それでこそ綾だ！」

一 、綾の頭をなでなでする。

綾 、にこにこする。

（回想終わり）

○沢良宜宅・明那の部屋（夜）

綾 「あなたも、せいぜい堕落しないように気をつけたままでほしいですわ」

明那 「もちろんよ、青宮院さん」

岬 「お2人とも、そろそろ就寝なさつてくだ
さい」

明那、時計を見る。時計は10時をさしている。

綾 「さ、寝るわ。」
早寝早起きも淑女のたしなみよ」

綾、布団をめくる。

明那 M 「あ、まずいわ！ そつちはわたしの

！
洗濯がまだ！」

ベッドがあらわになる。シーツに濡れたシミがあり、ペンが置かれている。

綾 「あら？ 沢良宜さん……これはおねしょ
じやない……まあ、ずいぶんお盛んですわ
ね？」

明那、ベツドに覆いかぶさる。

明那「見ないで！ 見ないでえつ！」

「すみませんお嬢様、洗濯日ではなく気づきました。青宮院さん、そちらはお嬢様のベッドなのでどいてください。あと、あまりお嬢様を困らせないよう」

綾
「はあーい」

綾、ベッドに潜る。

明那「こ、これはその」

綾「なにも心配しなくても、あなたがライバルだつてことは変わりませんわ！」

明那「え……あ、うん」

明那、ベッドに潜る。

岬「昨日お布団の中でこっそりなきつていたのですか。気づきませんでした」

明那「（涙目で） そうよお……」

岬「ふふっ。健全な証なので、何も恥じることはございませんよ。とはいって、大河様には秘密にしておきましょうね」

明那「（涙目で） うん……」

岬「新学期のために準備なさつてさぞお疲れでしょう。よろしければ、添い寝してさしあげますよ」

明那「……おねがい」

岬、ベッドに潜り、明那の頭をなでなでする。

明那「えへへ、山田さん……すう、すう……」

明那、安らかな表情ですやすやと眠り始める。

岬 「お疲れさまです、お嬢様。今日も一日、よくがんばりました」

岬 、につこり笑う。

○田中宅・勉強部屋（夜）

寛子、スマホで明那の画像を眺めている。

寛子「沢良宜明那……あなたのことが」

○沢良宜宅・明那の部屋（朝）

明那「ん、んくつ」

明那、伸びをする。

岬 「お目覚めですか」

綾 「（得意げに）早起き対決はわたくしの勝ちですわ！」

明那「じや、じやあお友達に」

綾 「それは違いますわ！ ライバルですわラ
イバル！」

岬と綾、明那のベッドの前に立つている。

明那、起き上がる。

明那M 「あきらめないわ、青宮院さん。あなたとお友達になつてみせる！」

○沢良宜宅・リビング（朝）

綺麗で広いリビング。

明那、大河、綾、沢良宜凜花（37）、

卓を囲つて豪華な朝食を食べている。

綾「ごちそうさま」

綾、綺麗な所作で席を立つ。

大河「ほう、やはり青宮院の娘。なかなかやるじやないか。男だつたら明那の嫁にほしきらいだ。ぜひうちにいてくれ」

綾「ありがとうございます」

綾、その場を離れる。

大河「明那も見習うんだぞ」

明那「負けないわ」

○学校・校門（朝）

明那と綾、並んで歩いている。

女子生徒A「え、沢良宜さんと青宮院さんが一緒に登校してる！」

生徒たち、2人を見てざわざわしている。

○学校・3の3教室（朝）

教室にはあまり人が来ていない。

2人、隣どうしの席に座っている。

明那「青宮院さん。お友達になるまで諦めないわ」

綾「ライバルですわ！」

明那、しゅんとする。

2人を見ている寛子。席を立ち、明那のもとに歩いてくる。

明那M「確かにこの人、いつもわたしと学年首位争いしてた田中寛子さん」

寛子「沢良宜明那さん！」

明那「はい」

寛子 「つ、付き合ってください！」

2人、沈黙する。

明那・綾 「ええええええええええつる」